

令和4年度 北九州市商圈調査報告書

《ダイジェスト版》

令和5年6月

目 次

1 調査の概要	1
2 北九州市の商圈.....	3
3 小倉中心市街地の商圈.....	5
4 黒崎中心市街地の商圈.....	7
5 主な商業地区への買物出向率	9
6 小倉中心市街地の利用状況	10
7 黒崎中心市街地の利用状況	13
8 ふだんの買物行動.....	16
9 東田地区(ジ アウトレット北九州、北九州英語村(KGG)、スペース・ラボ(新科学館)、いのちのたび博物館など)について	20
10 キャッシュレス決済について.....	22

1 調査の概要

(1) 商圈調査の目的

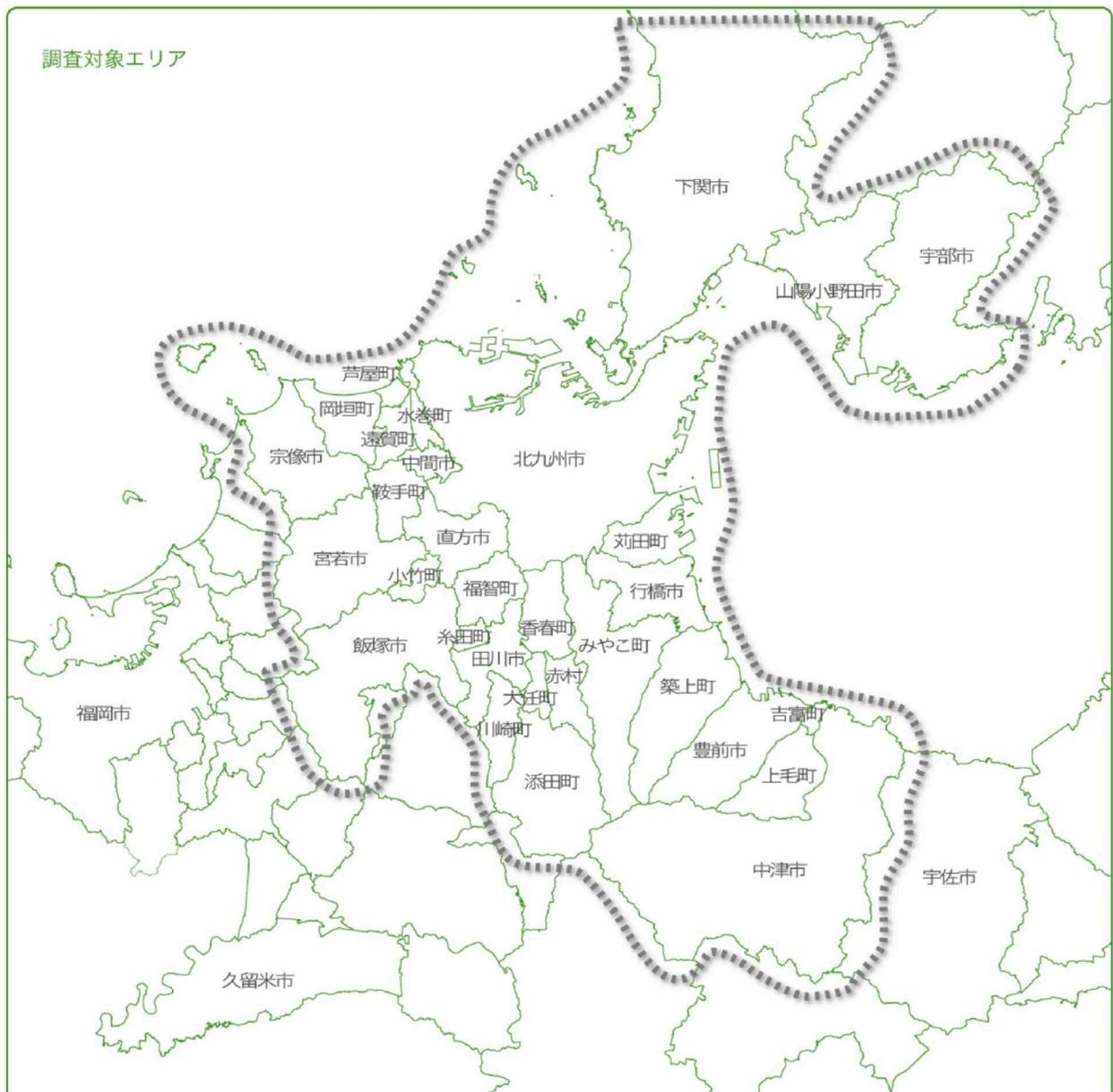
本調査では、北九州市の小売業の商圈を明らかにするとともに、市民及び周辺市町村居住者の買物行動とその変化を把握することによって、今後の商業施策を展開していく上での基礎資料とすることを目的としている。

(2) 調査の概要

ア 調査地域と対象者

調査地域は、北九州市圏域(北九州市及び北九州市を中心とした概ね半径 40km 圏内にある30市町村)であり、過去に実施してきた商圈調査範囲に令和 4 年から上毛町を追加した地域である。

居住区分	対象者数	対象の範囲
市内居住者	8,500 名	令和4年8月1日時点の住民基本台帳より無作為に抽出した 18 歳以上の男女
市外居住者	2,800 名	調査対象エリア内に居住する 18 歳以上の男女



イ 調査方法と期間

居住区分	調査方法	調査期間
市内居住者	郵送による配布・回収	令和4年9月16日～10月 7日
市外居住者	調査員の訪問による配布・回収	令和4年9月 1日～ 9月27日

ウ 調査票の回収状況

居住区分	配布数	有効回収数	有効回収率
市内居住者	8,500	3,193	37.6%
市外居住者	2,800	2,673	95.5%
合計	11,300	5,866	51.9%

■ 市区町村別配布数及び回収数 ■

	配布数	回収数		配布数	回収数
北九州市内	8,500	3,193	田川地域	199	192
門司区	844	330	田川市	100	93
小倉北区	1,666	573	田川郡香春町	24	24
小倉南区	1,896	694	田川郡添田町	21	21
若松区	724	292	田川郡川崎町	36	36
八幡東区	580	219	田川郡大任町	11	11
八幡西区	2,270	844	田川郡赤村	7	7
戸畑区	520	206	京築地域	539	541
区不明	0	35	行橋市	147	143
北九州市外計	2,800	2,673	豊前市	54	74
遠賀・宗像地域	476	470	京都郡苅田町	73	74
中間市	88	88	京都郡みやこ町	42	44
宗像市	196	175	築上郡吉富町	14	14
遠賀郡芦屋町	29	28	築上郡築上町	21	19
遠賀郡水巻町	59	68	築上郡上毛町	18	18
遠賀郡岡垣町	65	71	中津市	170	155
遠賀郡遠賀町	39	40	下関地域	1,026	940
直方・飯塚地域	560	530	下関市	553	559
直方市	117	98	宇部市	343	271
飯塚市	265	259	山陽小野田市	130	110
宮若市	59	57			
鞍手郡小竹町	17	17			
鞍手郡鞍手町	34	34			
田川郡糸田町	19	19			
田川郡福智町	49	46			
			合計	11,300	5,866

(3) 報告書記述における注意事項

報告書に掲載した回答のサンプル数は「N」で表記し、図表中の数値は原則として、回答数を母数とした構成比で表示している。この構成比は小数点以下第2位を四捨五入し、端数処理をしているため、合計は必ずしも100%にならない場合がある。

なお、複数回答(2つ以上の選択肢を回答)の場合、構成比は100%を超える。

また、年代別などの図表における左側のサンプル数は性別・年齢・居住地等の属性不明者を除いているため、これを合計しても全体のサンプル数と必ずしも同じになるとは限らない。

2 北九州市の商圈

《有効商圈人口の推移》

- 北九州市の有効商圈人口は、186 万人(千人未満は切り捨て記述。以下同様。)
- 平成 22 年までは減少傾向にあったが、平成 27 年から増加に転じている。今回は、北九州市内は減少しているものの、市外からが増えた結果、全体では平成 27 年に比べて 3.4% 増加している。
- 市外ではすべての地域で増加しており、直方・飯塚地域で 15.8%増加し、次いで遠賀・宗像地域で 13.4%増加、下関地域で 9.6%増加となっている。

■ 北九州市有効商圈人口の推移 ■



	北九州市の有効商圈人口(人)					増加率(%) (b)/(a)-1	買物出向率(%)		
	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年 (a)	令和4年 (b)		平成27年 (c)	令和4年 (d)	増減 (d)-(c)
北九州市	1,011,471	993,525	976,846	961,815	939,029	▲ 2.4%	100.0%	100.0%	0.0
北九州市外計	782,875	794,605	739,813	837,116	921,215	10.0%	61.6%	69.7%	8.1
遠賀・宗像地域	166,849	175,298	167,473	158,965	180,332	13.4%	68.5%	78.8%	10.3
直方・飯塚地域	127,026	116,457	115,313	144,697	167,494	15.8%	53.5%	64.2%	10.7
田川地域	53,354	56,642	37,740	52,966	56,421	6.5%	56.2%	64.0%	7.8
京築地域	161,631	183,009	178,670	181,587	189,313	4.3%	69.6%	71.1%	1.5
下関地域	274,015	263,199	240,617	298,901	327,655	9.6%	59.7%	68.6%	8.9
合計	1,794,346	1,788,130	1,716,659	1,798,931	1,860,244	3.4%	77.5%	82.3%	4.8

注)有効商圈人口算出に使用した人口は、国勢調査人口。

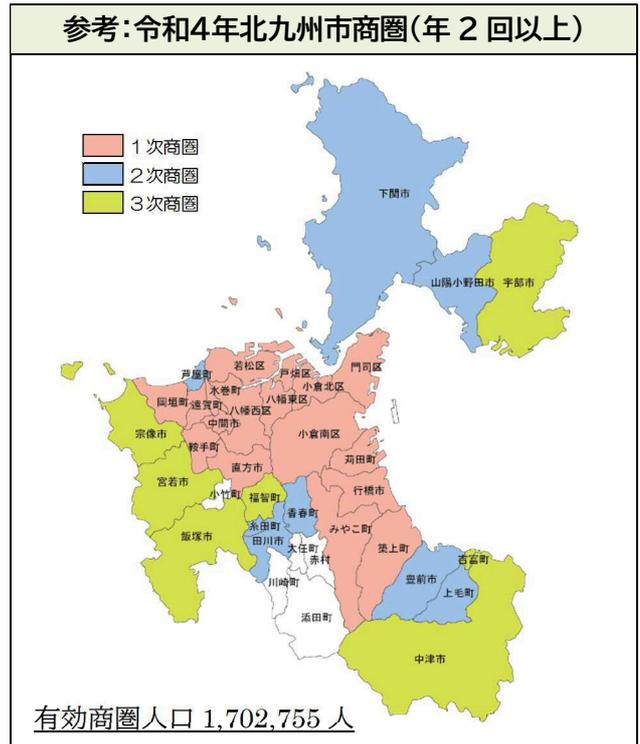
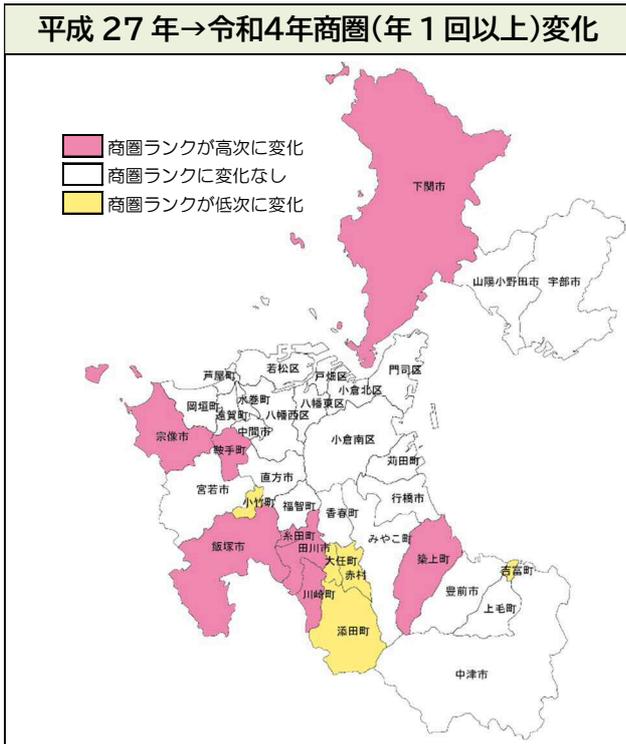
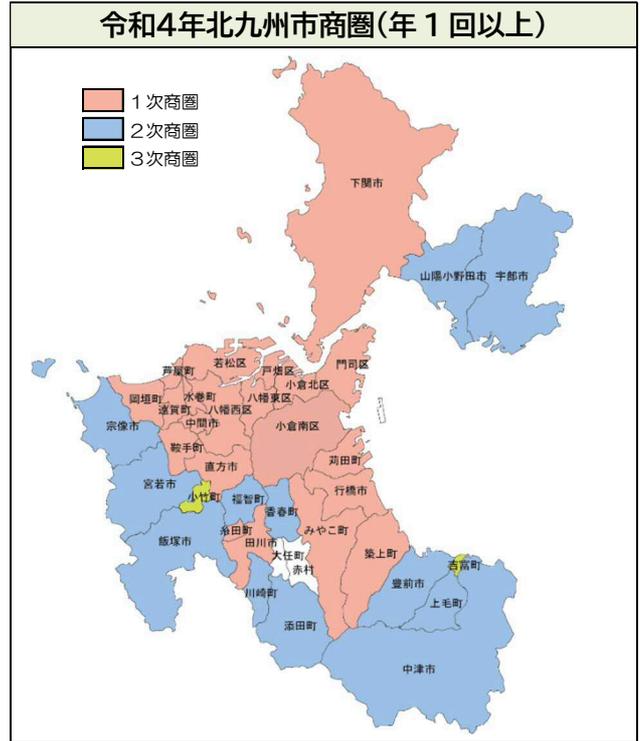
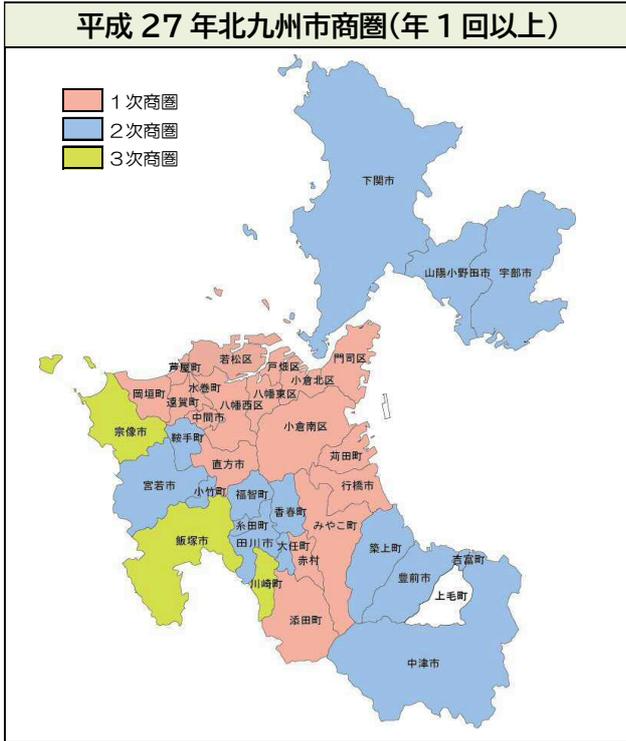
注)令和4年には上毛町を含む有効商圈人口、平成27年以前は上毛町は含まれていない。

※有効商圈人口は、北九州市圏域の市町村ごとに、当該市町村の人口に当該市町村の買物出向率を乗じて得た数値とした。(以下同様。)

《商圈ランクの推移》

令和4年・年1回以上でみた商圈ランク	平成27年から令和4年の商圈ランク変化
《1次商圈》・・・7区14市町村 ・北九州市内全区・中間市・芦屋町・水巻町・岡垣町 ・遠賀町・直方市・鞍手町・糸田町・田川市・行橋市 ・苅田町・みやこ町・築上町・下関市 《2次商圈》・・・12市町村 ・宗像市・飯塚市・宮若市・福智町・香春町・添田町 ・川崎町・豊前市・上毛町・中津市・宇部市・山陽小野田市 《3次商圈》・・・2市町村 ・小竹町・吉富町	《1次商圈へランクアップ》・・・5市町村 ・鞍手町・糸田町・田川市・築上町・下関市 《2次商圈へランクアップ》・・・3市町村 ・宗像市・飯塚市・川崎町 《ランクダウン》・・・5市町村 ・小竹町(2次→3次)・添田町(1次→2次) ・大任町(2次→ランク外)・赤村(1次→ランク外) ・吉富町(2次→3次)

■ 北九州市商圏ランクMAP ■



【 参考:商圏の定義と有効商圏人口 】

北九州市圏域の居住者に対する調査結果をもとに、市区町村ごとに、居住者が北九州市内のいずれかの商業地区に年 1 回以上の頻度で買物に出向く比率(買物出向率)を算出し、買物出向率に応じて以下の3区分で商圏ランクを設定した。なお、北九州市の各行政区は、北九州市全体の商圏としては1次商圏に分類した。

1次商圏	買物出向率 70%以上の市区町村
2次商圏	買物出向率 50%以上 70%未満の市区町村
3次商圏	買物出向率 30%以上 50%未満の市区町村

3 小倉中心市街地の商圈

《有効商圈人口の推移》

- 小倉中心市街地の有効商圈人口は、140万4千人。
- 平成12年以降、増加傾向にあったが、平成27年と比べて、市外が4.4%増加しているものの、市内で8.7%減少しているため、全体では2.2%減少している。
- 市外を地域別にみると、遠賀・宗像地域で28.8%増加、直方・飯塚地域で13.9%増加しているが、京築地域で6.5%減少、下関地域で0.8%減少している。

■ 小倉中心市街地有効商圈人口の推移 ■



	小倉中心市街地の有効商圈人口(人)					買物出向率(%)			
	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年 (a)	令和4年 (b)	増加率(%) (b)/(a)-1	平成27年 (c)	令和4年 (d)	増減 (d)-(c)
北九州市	761,398	787,825	830,879	718,128	655,566	▲ 8.7%	74.7%	69.8%	▲ 4.9
北九州市外計	572,633	576,270	576,716	717,539	749,201	4.4%	52.8%	56.7%	3.9
遠賀・宗像地域	61,464	72,542	95,093	100,640	129,608	28.8%	43.4%	56.6%	13.2
直方・飯塚地域	73,704	65,357	73,413	113,478	129,253	13.9%	42.0%	49.5%	7.5
田川地域	44,670	46,666	33,076	48,331	48,356	0.1%	51.3%	54.9%	3.6
京築地域	138,845	141,966	149,946	166,115	155,332	▲ 6.5%	63.6%	58.4%	▲ 5.2
下関地域	253,950	249,739	225,188	288,975	286,652	▲ 0.8%	57.7%	60.0%	2.3
合計	1,334,031	1,364,095	1,407,595	1,435,667	1,404,767	▲ 2.2%	61.9%	62.1%	0.2

注)有効商圈人口算出に使用した人口は、国勢調査人口。

注)令和4年には上毛町を含む有効商圈人口、平成27年以前は上毛町は含まれていない。

《商圈ランクの推移》

令和4年・年1回以上でみた商圈ランク	平成27年から令和4年の商圈ランク変化
《1次商圈》…5区1市町村 ・門司区・小倉北区・小倉南区・八幡東区・戸畑区 ・行橋市 《2次商圈》…2区21市町村 ・若松区・八幡西区・中間市・宗像市・芦屋町・水巻町 ・遠賀町・直方市・宮若市・鞍手町・糸田町・福智町 ・田川市・香春町・川崎町・豊前市・苅田町・みやこ町 ・築上町・上毛町・下関市・宇部市・山陽小野田市 《3次商圈》…5市町村 ・岡垣町・飯塚市・小竹町・添田町・中津市	《1次商圈へランクアップ》…1市町村 ・行橋市 《2次商圈へランクアップ》…4市町村 ・宗像市・田川市・川崎町・山陽小野田市 《3次商圈へランクアップ》…1市町村 ・飯塚市 《ランクダウン》…9市町村 ・岡垣町(1次→3次)・直方市(1次→2次)・糸田町(1次→2次)・添田町(1次→3次)・大任町(1次→ランク外)・赤村(2次→ランク外)・苅田町(1次→2次)・吉富町(2次→ランク外)・中津市(2次→3次)

4 黒崎中心市街地の商圈

《有効商圈人口の推移》

- 黒崎中心市街地の有効商圈人口は 51 万 8 千人。
- 減少傾向で推移しており、平成 27 年と比べて、市外では 4.0%増加したが、北九州市内で 17.0%減少した結果、全体では 8.5%減少している。
- 市外を地域別にみると、遠賀・宗像地域で 19.4%減少、直方・飯塚地域で 1.9%減少、京築地域で 15.2%減少したが、下関地域で 75.8%増加、田川地域で 297.1%増加したため、市外全体としては 4.0%増加としている。

■ 黒崎中心市街地有効商圈人口の推移 ■



	黒崎中心市街地の有効商圈人口(人)						買物出向率(%)		
	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和4年	増加率(%) (b)/(a)-1	(c)	平成27年	令和4年
	(a)	(b)	(c)	(d)	増減 (d)-(c)				
北九州市	412,810	373,129	371,902	338,705	281,278	▲ 17.0%	35.2%	30.0%	▲ 5.2
北九州市外計	238,038	208,575	199,538	228,150	237,365	4.0%	16.8%	18.0%	1.2
遠賀・宗像地域	135,687	114,300	110,884	86,993	70,144	▲ 19.4%	37.5%	30.7%	▲ 6.8
直方・飯塚地域	67,628	65,303	57,432	67,515	66,256	▲ 1.9%	25.0%	25.4%	0.4
田川地域	5,039	5,487	6,292	3,456	13,724	297.1%	3.7%	15.6%	11.9
京築地域	19,026	11,231	10,181	39,717	33,681	▲ 15.2%	15.2%	12.7%	▲ 2.5
下関地域	10,658	12,254	14,749	30,469	53,560	75.8%	6.1%	11.2%	5.1
合計	650,848	581,704	571,440	566,855	518,643	▲ 8.5%	24.4%	22.9%	▲ 1.5

注)有効商圈人口算出に使用した人口は、国勢調査人口。

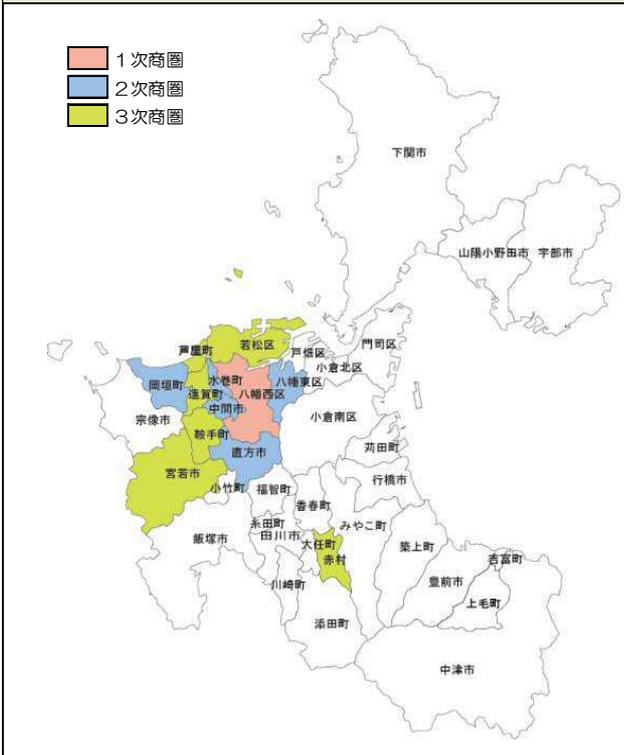
注)令和4年には上毛町を含む有効商圈人口、平成27年以前は上毛町は含まれていない。

《商圈ランクの推移》

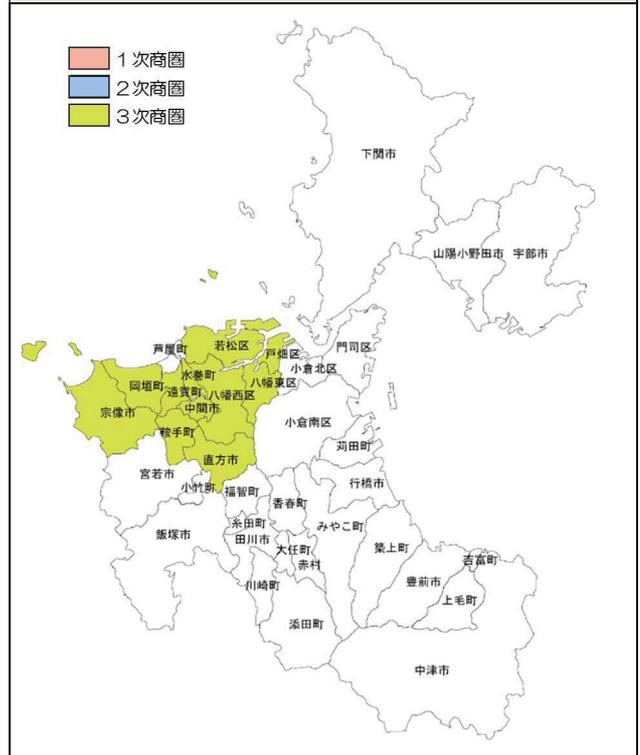
令和4年・年 1 回以上でみた商圈ランク	平成 27 年から令和4年の商圈ランク変化
《1次商圈》 ・該当なし 《2次商圈》 ・該当なし 《3次商圈》・・・4 区 7 市町村 ・若松区・八幡東区・八幡西区・戸畑区・中間市 ・宗像市・水巻町・岡垣町・遠賀町・直方市・鞍手町	《3次商圈へランクアップ》・・・1 区 1 市町村 ・戸畑区・宗像市 《ランクダウン》・・・2 区 7 市町村 ・八幡東区(2次→3次)・八幡西区(1次→3次) ・中間市(2次→3次)・芦屋町(3次→ランク外) ・水巻町(2次→3次)・岡垣町(2次→3次) ・直方市(2次→3次)・宮若市(3次→ランク外) ・赤村(3次→ランク外)

■ 黒崎中心市街地商圏ランクMAP ■

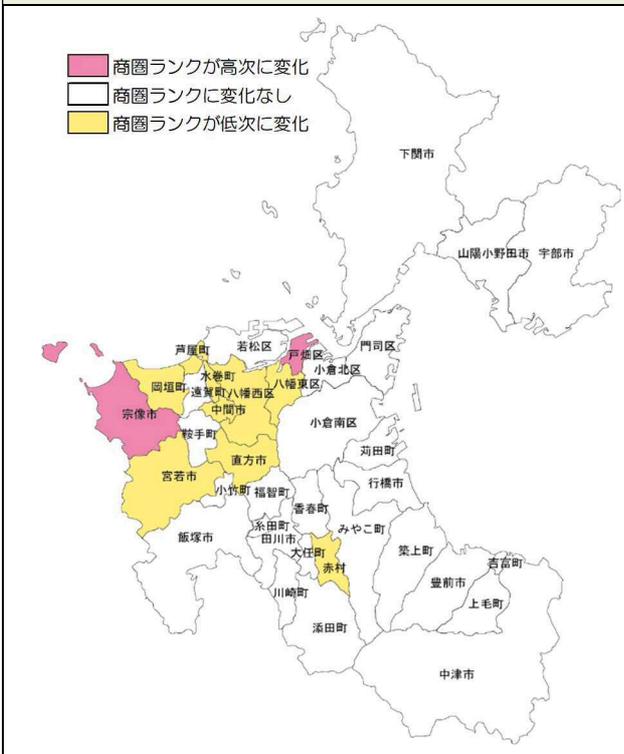
平成 27 年黒崎中心市街地商圏(年 1 回以上)



令和4年黒崎中心市街地商圏(年 1 回以上)

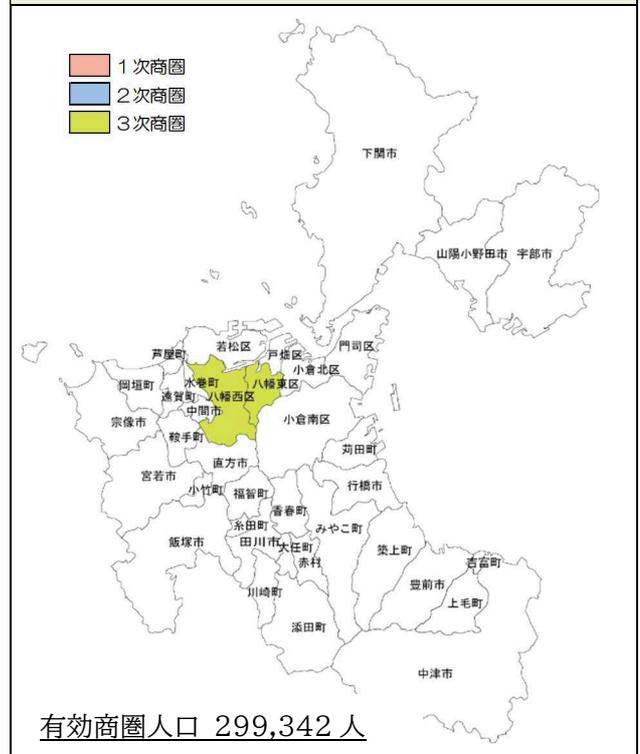


平成 27 年→令和4年商圏(年 1 回以上)変化



【参考】

令和4年黒崎中心市街地商圏(年 2 回以上)



有効商圏人口 299,342 人

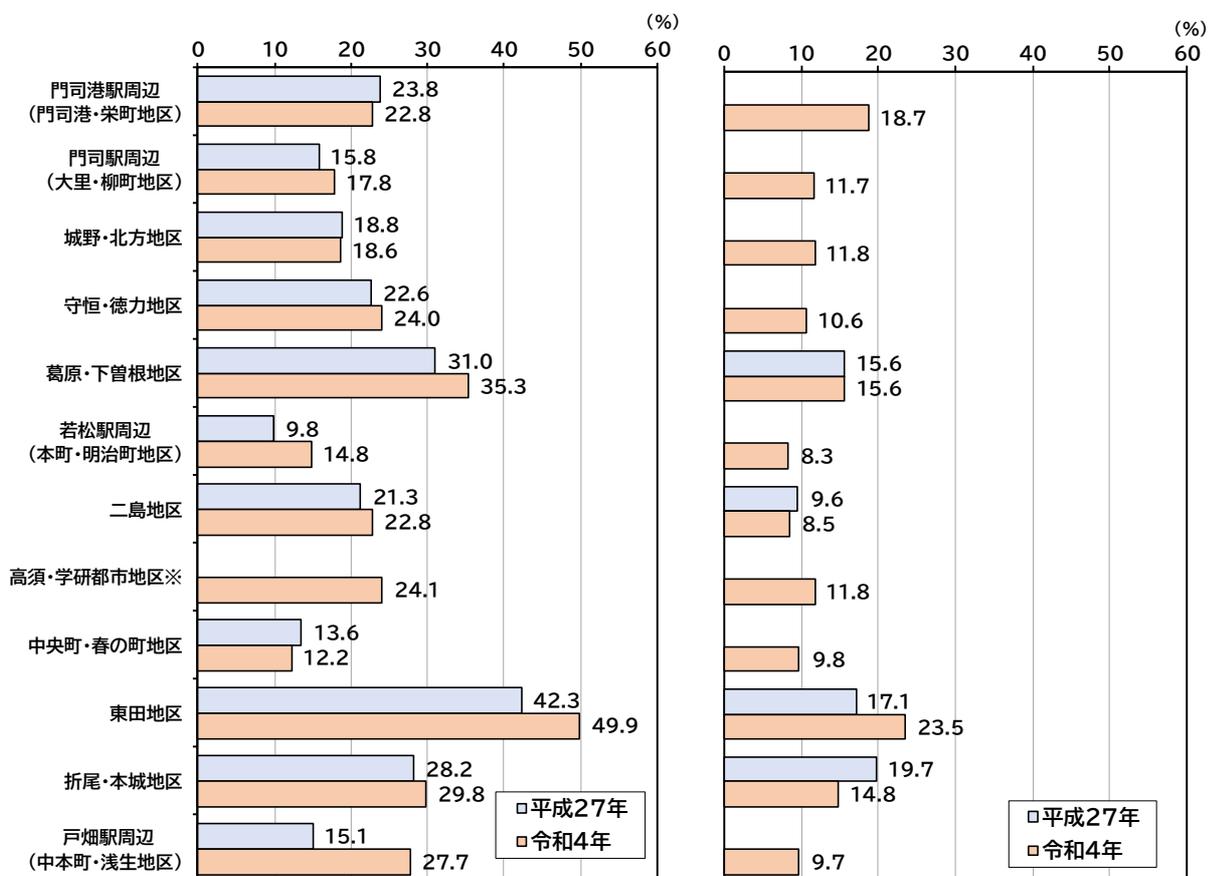
5 主な商業地区への買物出向率

- 市内居住者の主な商業地区への年1回以上の買物出向率をみると、大型店の集積が進んでいる東田地区への出向率が49.9%と最も高く、次いで葛原・下曾根地区 35.3%、折尾・本城地区 29.8%、戸畑駅周辺 27.7%の順となっている。
- 平成27年の買物出向率と比べると、戸畑駅周辺が12.6ポイント(15.1%→27.7%)と最も上昇、次いで東田地区が7.6ポイント(42.3%→49.9%)上昇している。
- 12商業地区のうち8地区が前回よりも上昇し、3地区はほぼ現状維持で、大きく減少した地区はない。
- 市外居住者の主な商業地区への年1回以上の買物出向率をみると、東田地区が23.5%と最も高く、次いで門司港駅周辺 18.7%、葛原・下曾根地区 15.6%、折尾・本城地区 14.8%の順となっている。
- 今回調査から市内居住者と同一の商業地区設定としたため、正確な比較はできないが、前回と比較できる地区についてみると、東田地区への出向率が6.4ポイント上昇(17.1%→23.5%)、葛原・下曾根地区は前回と同率、折尾・本城地区は4.9ポイント減少(19.7%→14.8%)、二島地区は1.1ポイント減少(9.6%→8.5%)している。

■ 買物出向率 ■

《市内居住者》

《市外居住者》



※高須・学研都市地区は今回調査より追加。

※前回調査では、市外居住者には「葛原・下曾根地区」、「二島地区」、「東田地区」、「折尾・本城地区」のみ質問。

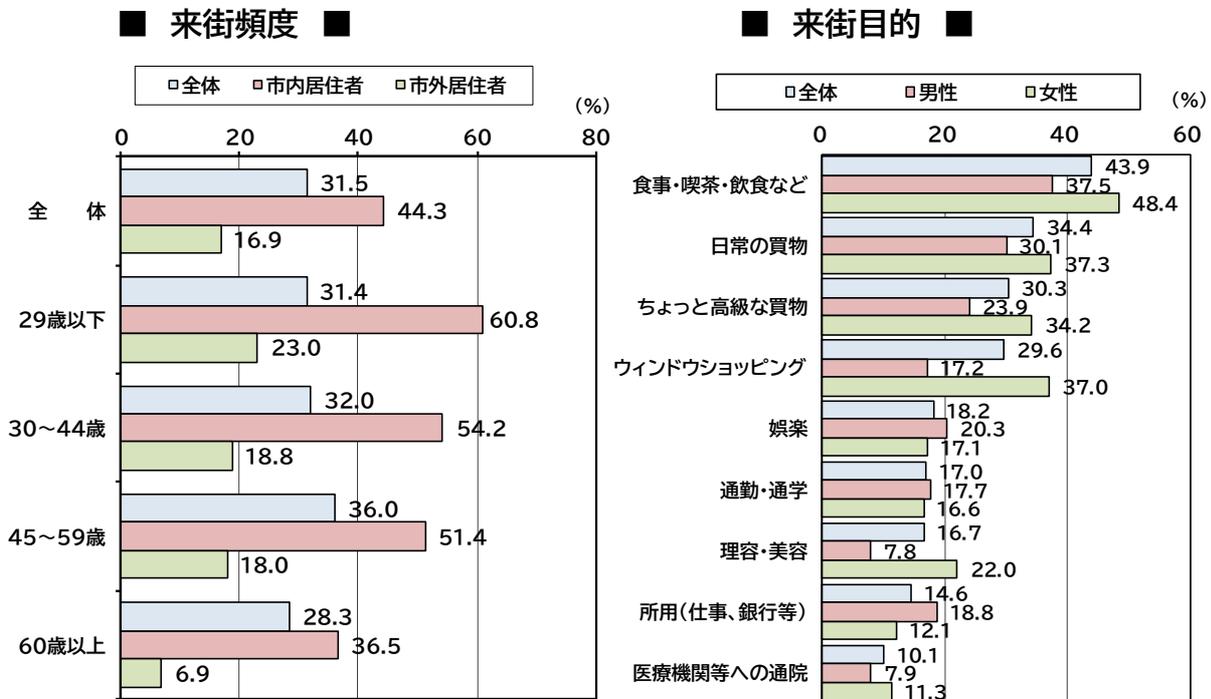
6 小倉中心市街地の利用状況

《来街頻度》

- 小倉中心市街地を買物目的に限らず月1回以上訪れる人の割合は、全体では31.5%（市内居住者44.3%、市外居住者16.9%）である。
- 年代別にみると、市内、市外居住者とも、29歳以下が最も高く、年代が上がるにつれて来街頻度が低くなる傾向にある。

《来街目的》

- 全体では「食事・喫茶・飲食など」が43.9%で最も高く、次いで、「日常の買物」34.4%、「ちょっと高級な買物」30.3%「ウィンドウショッピング」29.6%の順となっている。
- 性別にみると、全般的に女性の方が男性よりも上回っているが、中でも「ウィンドウショッピング」「理容・美容」「食事・喫茶・飲食など」「ちょっと高級な買物」は女性の方が男性を大きく上回っている。逆に、男性が女性を上回るものとしては、「娯楽」「所用（仕事、銀行等）」がある。



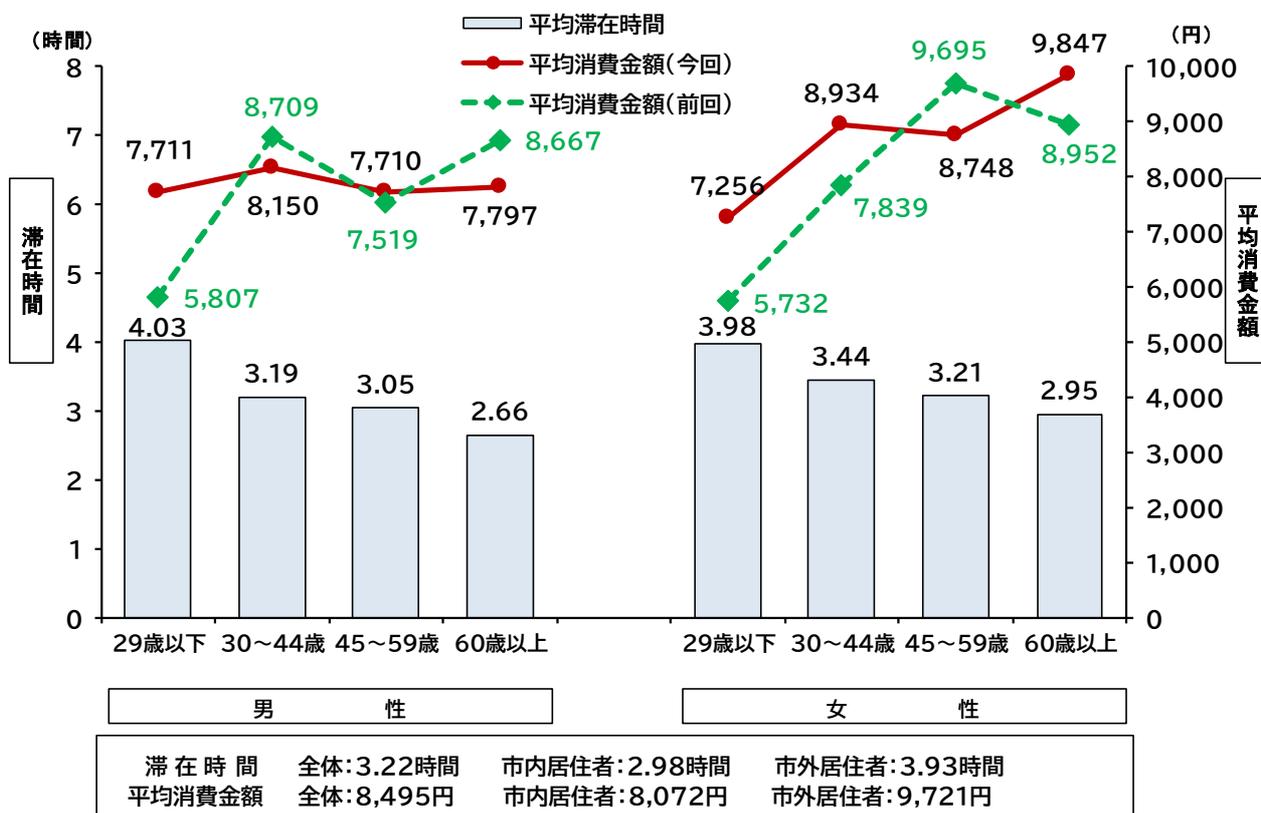
《滞在時間と消費金額》

- 平均滞在時間は全体で3.22時間。
- 市内居住者の2.98時間に対し、市外居住者は3.93時間となっており、市内居住者よりも約1時間長く滞在している。
- 男性29歳以下の4.03時間が最も長く、次いで女性29歳以下3.98時間、女性30～44歳3.44時間の順となっており、男女ともに年代が上がるにつれて、滞在時間が短くなっている。
- 平均消費金額は全体で8,495円。
- 市内居住者の8,072円に対し、市外居住者は9,721円となっており、市内居住者よりも1,700円程度多く消費している。
- 女性60歳以上の9,847円が最も多く、次いで、女性30～44歳8,934円、女性45～59歳8,748円の順となっており、いずれも来街目的に「ちょっと高級な買物」との回

答が多かった年代となっている。

- 滞在時間は男女ともに 29 歳以下が最も長いが、消費金額は男性が 7,711 円、女性が 7,256 円と少ない結果となっている。また、消費金額は男性では年代間の差は小さいが、女性では年代間の差が大きくなっている。

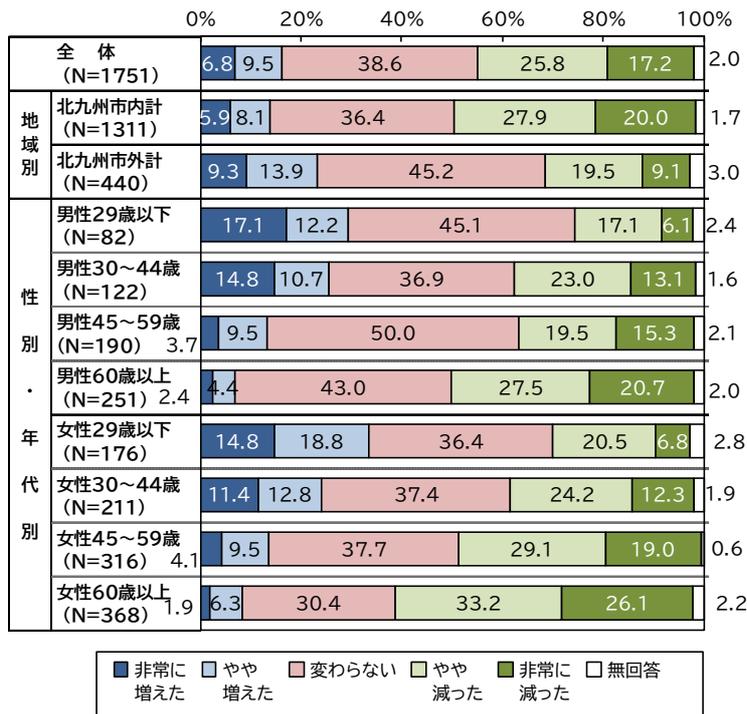
■ 小倉中心市街地での滞在時間と消費金額 ■



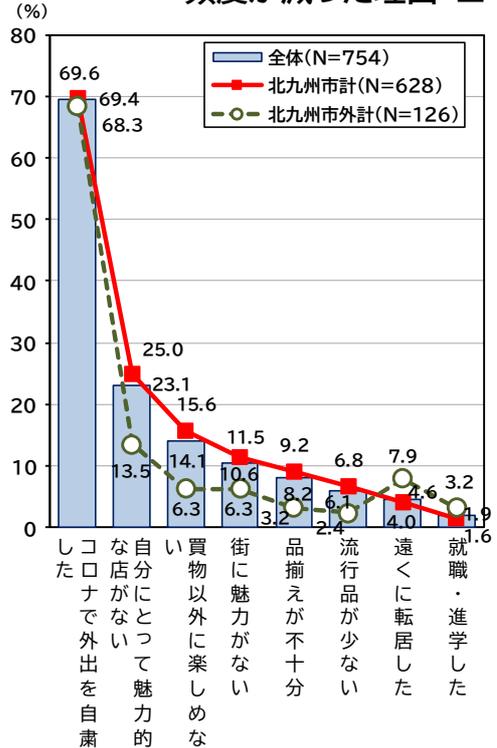
《来街頻度の変化とその理由》

- 「非常に増えた」「やや増えた」と回答した人を『増加層』、「やや減った」「非常に減った」と回答した人を『減少層』とした場合、全体では、『増加層』16.3%に対し『減少層』43.0%となっており、大幅に減少している。
- 市内居住者は『増加層』14.0%に対し『減少層』47.9%で大幅な減少となっているが、市外居住者は『増加層』23.2%に対し『減少層』28.6%と、増減の差は小さくなっている。
- 男女ともに 29 歳以下は増加傾向にあるが、その他の年代では減少傾向にあり、概ね年代が上がるにつれて減少超過が拡大していく傾向がみられ、男女とも 60 歳以上で減少超過が最も大きくなっている。
- 小倉中心市街地を訪れる頻度が減った理由をみると、市内居住者、市外居住者とも「コロナ禍で外出を自粛した」が圧倒的に高くなっている。

■ 小倉中心市街地を訪れる頻度の変化 ■



■ 小倉中心市街地を訪れる頻度が減った理由 ■



《小倉中心市街地に対するイメージ》

【イメージ上位5項目】

市内居住者	
①電車やバスなど公共交通機関が充実していると思う	3.99
②医療機関が充実しているまちだと思う	3.97
③名所、旧跡などがあり歴史・文化のあるまちだと思う	3.79
④公共施設や金融機関などが充実しているまちだと思う	3.77
⑤住むのに便利で快適なまちだと思う	3.55
市外居住者	
①飲食店や映画館など娯楽施設が充実していると思う	4.00
②広域から人が集まる魅力的なまちだと思う	3.95
③電車やバスなど公共交通機関が充実していると思う	3.94
④ぶらぶら歩いて楽しいまちだと思う	3.88
⑤公共施設や金融機関などが充実しているまちだと思う	3.85

評点	
そう思う	5
ややそう思う	4
どちらともいえない	3
あまりそう思わない	2
そう思わない	1

【小倉中心市街地の全体イメージ評価】

総合して小倉中心市街地のイメージはよいと思う	3.53
------------------------	------

【イメージに差のある上位5項目】

	市内	市外
① 子どもから大人まで全ての世代が楽しめるまちだと思う	3.11	3.71
② お店の人の威勢がよく、活気があるまちだと思う	3.00	3.55
③ 長時間滞在しても飽きのこないまちだと思う	2.84	3.50
④ 街並みがおしゃれだと思う	2.83	3.49
⑤ ワクワク、ドキドキ感のあるお店が多いと思う	2.60	3.39

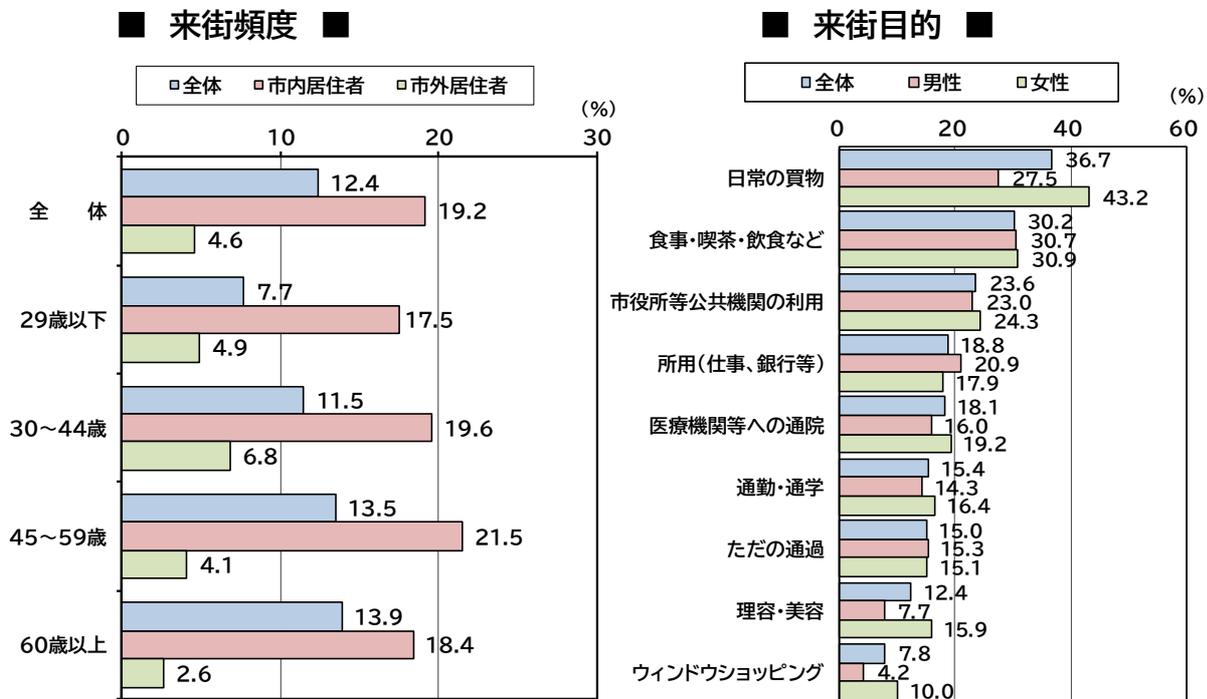
7 黒崎中心市街地の利用状況

《来街頻度》

- 黒崎中心市街地を買物目的に限らず月1回以上訪れている人の割合は、全体では12.4%(市内居住者19.2%、市外居住者4.6%)である。
- 全体では年代が上がるにつれて来街頻度が高くなる傾向にあるが、市内居住者では60歳以上になると来街頻度が下がり、市外居住者では、30～44歳で6.8%と最も高く、それ以上の年代では、年代が上がるにつれて来街頻度が低くなる傾向にある。

《来街目的》

- 全体では、「日常の買物」が36.7%と最も高く、次いで「食事・喫茶・飲食など」30.2%、「市役所等公共機関の利用」23.6%の順となっている。
- 性別にみると、全般的に女性の方が男性よりも上回っており、中でも「日常の買物」「理容・美容」「ウィンドウショッピング」は女性の方が男性を大きく上回っている。

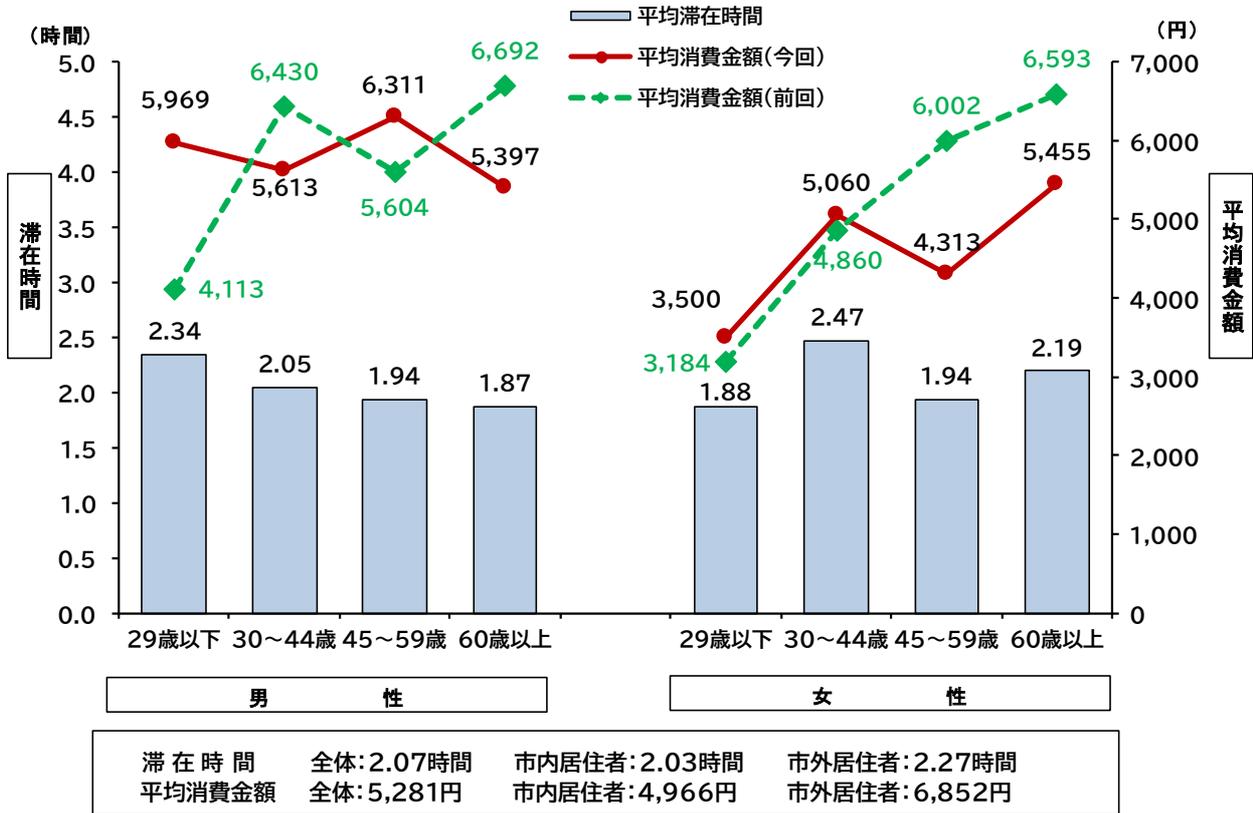


《滞在時間と消費金額》

- 平均滞在時間は全体で2.07時間。
- 市内居住者の2.03時間に対し、市外居住者2.27時間となっており、市外居住者の方が若干長くなっている。
- 男性では年代が上がるほど滞在時間が短くなる傾向にある。一方、女性では30～44歳の2.47時間が最も長く、次いで60歳以上が2.19時間となっており、29歳以下、45～59歳では2時間を下回っている。
- 平均消費金額は全体で5,281円。
- 市外居住者の6,852円に対し、市内居住者は4,966円となっており、市外居住者の方が2,000円弱多く消費している。
- 男性45～59歳が6,311円と最も多く、次いで、男性29歳以下5,969円、男性30～44歳5,613円の順となっている。女性では、60歳以上の5,455円が最も多く、29歳以下の3,500円が最も少なくなっている。

- 滞在時間では、男性は29歳以下、女性は30～44歳が最も長く、消費金額は男性は45～59歳、女性は60歳以上が最も多くなっており、男女とも滞在時間の長さが消費金額の多さにつながっていない。また、消費金額の最高と最低の差は、男性では914円、女性では1,955円となっており、女性の方が差が大きくなっている。

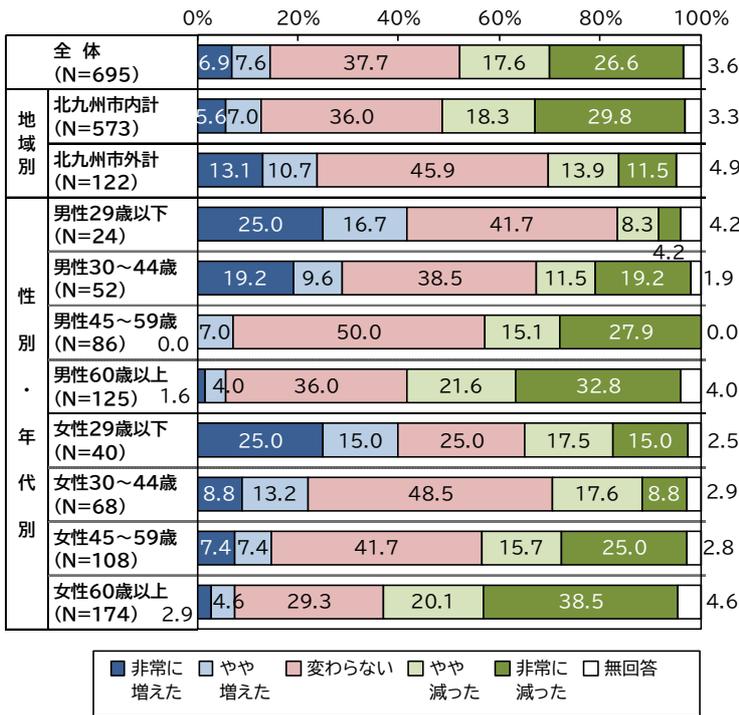
■ 黒崎中心市街地での滞在時間と消費金額 ■



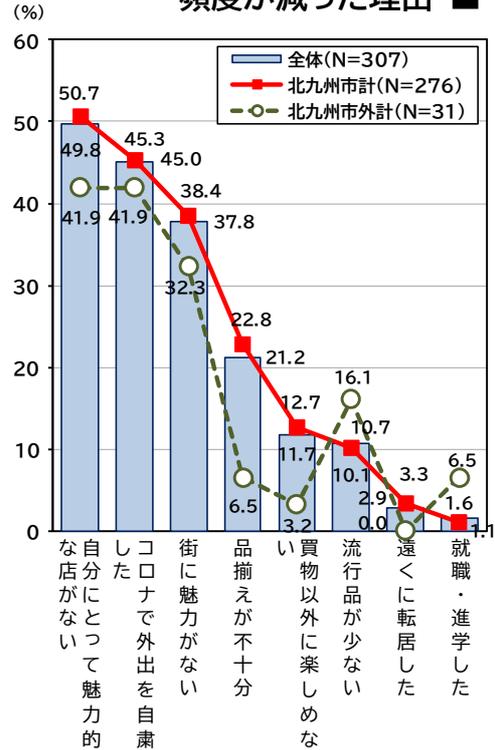
《来街頻度の変化とその理由》

- 「非常に増えた」「やや増えた」と回答した人を『増加層』、「やや減った」「非常に減った」と回答した人を『減少層』とした場合、全体では『増加層』14.5%に対し『減少層』44.2%で減少超過が著しくなっている。
- 市内居住者は『増加層』12.6%に対し『減少層』48.1%で減少傾向にあるが、市外居住者は『増加層』23.8%に対し『減少層』25.4%とほぼ拮抗している。
- 男女ともに29歳以下は『増加層』が『減少層』を上回り、増加傾向にあるが、年代が上がるにつれて減少傾向が強まっており、男女とも60歳以上で減少超過が最も大きくなっている。
- 黒崎中心市街地を訪れる頻度が減った理由をみると、全体では「自分にとって魅力的な店がない」が49.8%と最も高く、次いで「コロナで外出を自粛した」45.0%、「街に魅力がない」37.8%、「品揃えが不十分」21.2%の順となっており、より魅力的な店舗づくりの必要性がうかがえる。

■ 黒崎中心市街地を訪れる
頻度の変化 ■



■ 黒崎中心市街地を訪れる
頻度が減った理由 ■



《黒崎中心市街地に対するイメージ》
【イメージ上位5項目】

市内居住者	
①電車やバスなど公共交通機関が充実していると思う	3.76
②医療機関が充実しているまちだと思う	3.51
③公共施設や金融機関などが充実しているまちだと思う	3.44
④住むのに便利で快適なまちだと思う	3.00
⑤名所、旧跡などがあり歴史・文化のあるまちだと思う	2.88
市外居住者	
①電車やバスなど公共交通機関が充実していると思う	3.44
②医療機関が充実しているまちだと思う	3.23
③公共施設や金融機関などが充実しているまちだと思う	3.22
④住むのに便利で快適なまちだと思う	3.10
⑤広域から人が集まる魅力的なまちだと思う	3.02

評点	
そう思う	5
ややそう思う	4
どちらともいえない	3
あまりそう思わない	2
そう思わない	1

【黒崎中心市街地の全体イメージ評価】

総合して黒崎中心市街地のイメージはよいと思う	2.77
------------------------	------

【イメージに差のある上位5項目】

	市内	市外
①広域から人が集まる魅力的なまちだと思う	2.26	3.02
②子どもから大人まで全ての世代が楽しめるまちだと思う	2.20	2.89
③飲食店や映画館など娯楽施設が充実していると思う	2.06	2.67
④長時間滞在しても飽きのこないまちだと思う	1.98	2.59
⑤ワクワク、ドキドキ感のあるお店が多いと思う	1.91	2.58

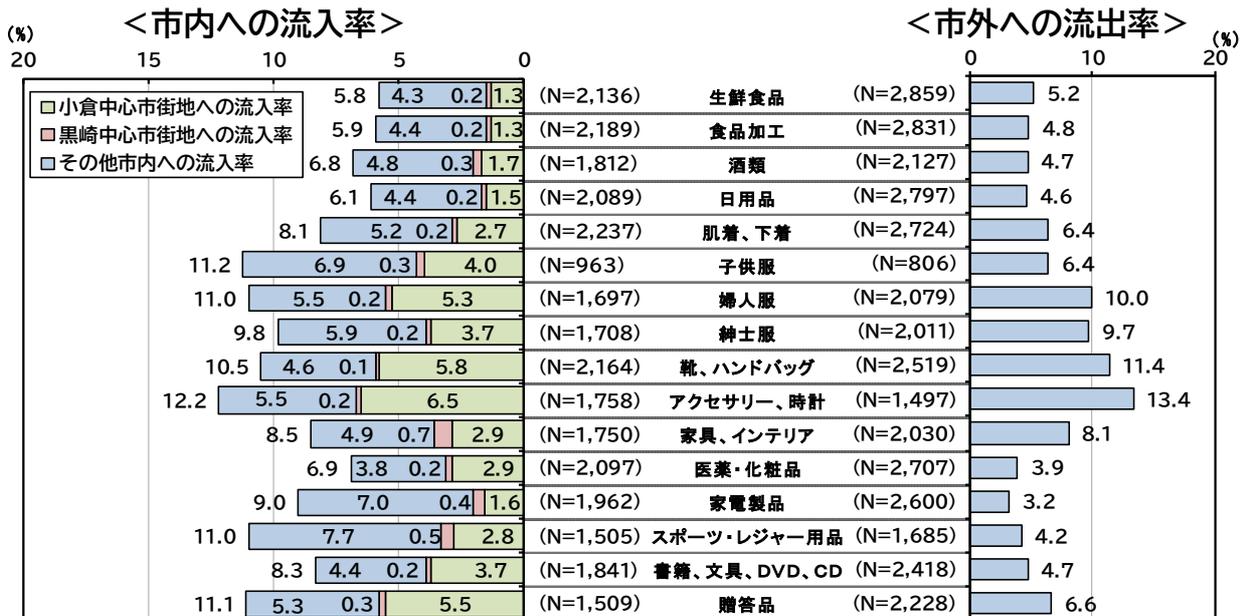
8 ふだんの買物行動

流入率…市外居住者が北九州市内へ買物に来る割合
流出率…市内居住者が北九州市外へ買物に行く割合

《買物場所》

- 多くの品目で、流入率が流出率を上回る流入超過となっているが、「アクセサリ、時計」と「靴、ハンドバッグ」は、わずかだが流出超過となっている。
- 品目別に流入超過の状況を見ると、「スポーツ・レジャー用品」の6.8ポイントが最も大きく、「家電製品」5.8ポイント、「子供服」4.8ポイント、「贈答品」4.5ポイント、「書籍、文具、DVD、CD」3.6ポイントの順となっている。

■ 市内への流入率・市外への流出率 ■



《買物先の店舗形態》

- 最寄品のうち「生鮮食品」「食品加工」は『食品スーパー』、「酒類」「日用品」は『ディスカウントストア』、「医薬・化粧品」は『ドラッグストア』の割合が最も高くなっている。
- 買回品のうち、「肌着、下着」、「子供服」、「婦人服」、「紳士服」、「靴、ハンドバッグ」「アクセサリ、時計」は『総合スーパー・SC』、「家具、インテリア」「家電製品」「スポーツ・レジャー用品」「書籍、文具、DVD、CD」では『専門店』、「贈答品」は『デパート』が割合が最も高くなっている。
- 市内居住者、市外居住者で異なっている点をあげると、市内居住者では、「酒類」が『食品スーパー』、「アクセサリ、時計」が『デパート』、「家具、インテリア」が『ホームセンター』、市外居住者では、「贈答品」が『総合スーパー・SC』の割合が最も高くなっている。

■ 品目別にみた買物先の店舗形態TOP3 ■

【最寄品】

	生鮮食品	食品加工	酒類	日用品	医薬・化粧品
全体	食品スーパー 50.6 総合スーパー・SC 21.6 ディスカウントストア 18.0	食品スーパー 42.7 ディスカウントストア 23.0 総合スーパー・SC 20.9	ディスカウントストア 33.2 食品スーパー 28.7 総合スーパー・SC 17.5	ディスカウントストア 30.9 総合スーパー・SC 18.9 ドラッグストア 18.1	ドラッグストア 51.5 総合スーパー・SC 14.6 ディスカウントストア 13.4
市内居住者	食品スーパー 54.5 総合スーパー・SC 22.5 ディスカウントストア 13.1	食品スーパー 45.9 総合スーパー・SC 22.0 ディスカウントストア 18.7	食品スーパー 30.7 ディスカウントストア 29.0 総合スーパー・SC 19.0	ディスカウントストア 24.3 ドラッグストア 23.2 総合スーパー・SC 18.1	ドラッグストア 61.2 総合スーパー・SC 12.7 ディスカウントストア 7.7
市外居住者	食品スーパー 45.6 ディスカウントストア 24.5 総合スーパー・SC 20.4	食品スーパー 38.7 ディスカウントストア 28.6 総合スーパー・SC 19.5	ディスカウントストア 38.0 食品スーパー 26.5 総合スーパー・SC 15.8	ディスカウントストア 39.3 総合スーパー・SC 19.9 食品スーパー 13.0	ドラッグストア 39.6 ディスカウントストア 20.4 総合スーパー・SC 17.0

■ 品目別にみた買物先の店舗形態TOP3 ■(続き)

【買回品】

	肌着、下着		子供服		婦人服		紳士服		靴、ハンドバッグ	
全体	総合スーパー・SC	50.7	総合スーパー・SC	52.7	総合スーパー・SC	46.4	総合スーパー・SC	46.5	総合スーパー・SC	40.8
	ディスカウントストア	13.2	専門店	14.9	デパート	14.2	専門店	16.8	デパート	18.3
	専門店	8.4	インターネット	9.1	インターネット	12.3	デパート	12.1	インターネット	13.4
市内居住者	総合スーパー・SC	51.3	総合スーパー・SC	46.8	総合スーパー・SC	43.0	総合スーパー・SC	43.2	総合スーパー・SC	37.9
	専門店	10.2	専門店	21.7	デパート	16.6	専門店	20.9	デパート	21.5
	ディスカウントストア	9.0	インターネット	9.9	インターネット	11.4	デパート	13.0	専門店	13.4
市外居住者	総合スーパー・SC	50.0	総合スーパー・SC	57.5	総合スーパー・SC	50.5	総合スーパー・SC	50.2	総合スーパー・SC	44.0
	ディスカウントストア	18.1	専門店	9.3	インターネット	13.5	専門店	12.1	インターネット	15.0
	インターネット	8.0	インターネット	8.4	デパート	11.3	デパート	11.1	デパート	14.8

	アクセサリー、時計		家具、インテリア		家電製品		スポーツ・レジャー用品		書籍、文具、DVD、CD	
全体	総合スーパー・SC	32.1	専門店	34.5	専門店	66.6	専門店	46.5	専門店	41.3
	デパート	22.6	ホームセンター	32.1	インターネット	9.7	総合スーパー・SC	19.4	総合スーパー・SC	25.0
	インターネット	18.0	総合スーパー・SC	10.5	総合スーパー・SC	7.4	インターネット	14.1	インターネット	19.4
市内居住者	デパート	27.1	ホームセンター	41.7	専門店	71.4	専門店	49.4	専門店	41.5
	総合スーパー・SC	26.8	専門店	30.9	インターネット	9.5	総合スーパー・SC	15.9	総合スーパー・SC	26.3
	インターネット	16.8	インターネット	9.4	総合スーパー・SC	5.1	インターネット	15.0	インターネット	18.6
市外居住者	総合スーパー・SC	36.5	専門店	38.5	専門店	60.7	専門店	43.5	専門店	41.1
	インターネット	19.0	ホームセンター	21.5	総合スーパー・SC	10.3	総合スーパー・SC	23.3	総合スーパー・SC	23.4
	デパート	18.8	総合スーパー・SC	14.8	インターネット	9.8	インターネット	13.1	インターネット	20.5

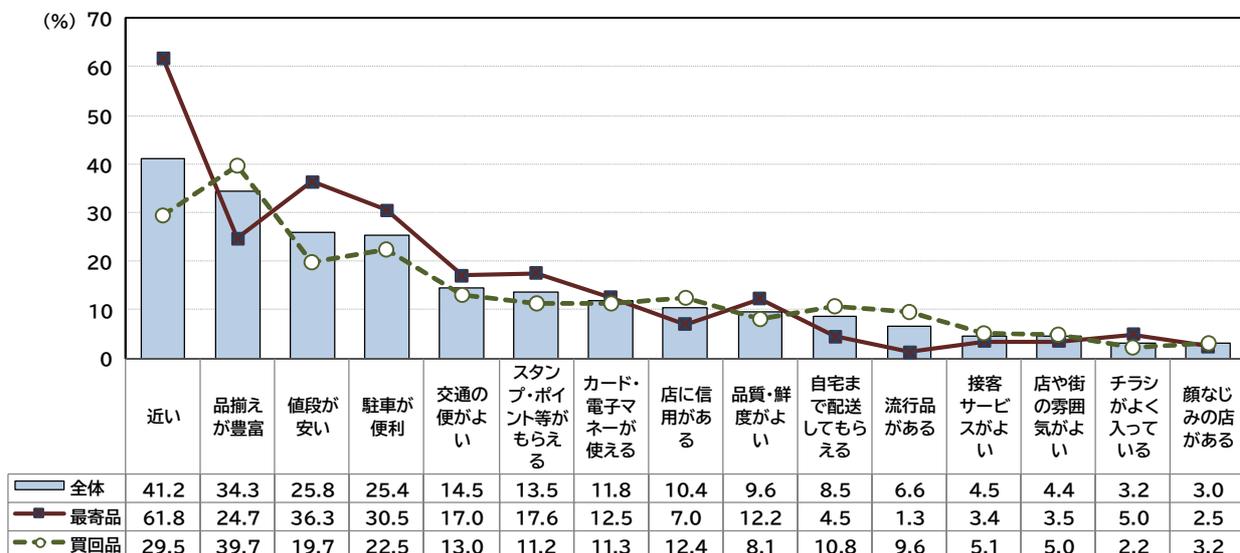
	贈答品	
全体	デパート	35.3
	総合スーパー・SC	33.8
	インターネット	13.3
市内居住者	デパート	43.3
	総合スーパー・SC	27.4
	インターネット	13.4
市外居住者	総合スーパー・SC	43.0
	デパート	23.9
	インターネット	13.2

70%以上
 50~70%未満
 30~50%未満

《買物先を選ぶ理由》

- 全体では「近い」の41.2%が最も高く、次いで、「品揃えが豊富」34.3%、「値段が安い」25.8%、「駐車が便利」25.4%の順となっている。
- 最寄品では「近い」が61.8%と圧倒的に高くなっているが、買回品では「品揃えが豊富」が39.7%と最も高く、買物先を選ぶ理由に違いがみられる。また、「値段が安い」「駐車が便利」「スタンプ・ポイント等がもらえる」「品質・鮮度がよい」という理由は最寄品に多く、「流行品がある」「自宅まで配送してもらえる」「店に信用がある」という理由は買回品に多くみられる。

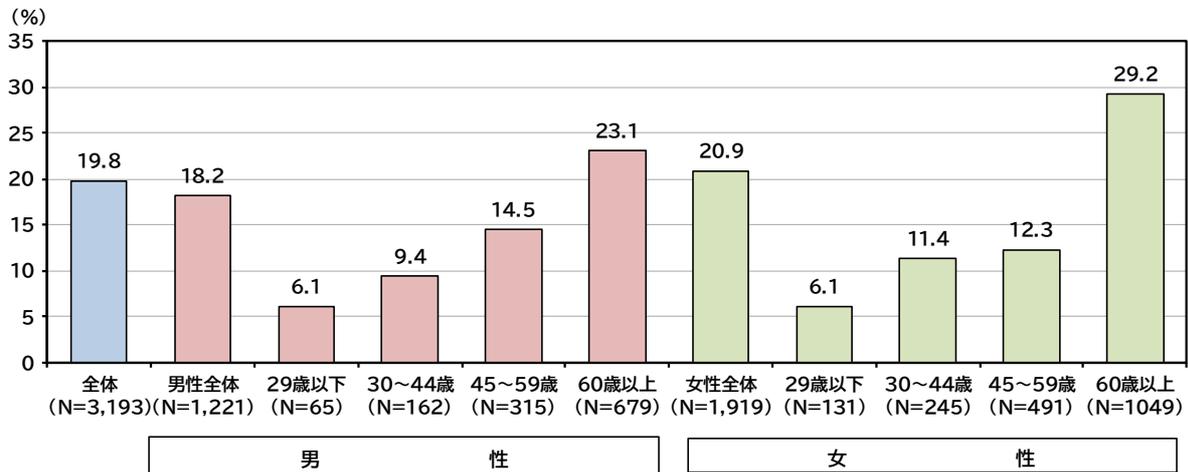
■ 買物をする際に店舗を選ぶ理由 ■



《商店街・市場の利用状況》

- 商店街・市場を週1回以上利用する人の割合は、全体では19.8%。
- 男女ともに年代が上がるにつれて利用頻度が高くなり、60歳以上の男性では23.1%、女性では29.2%となっている。

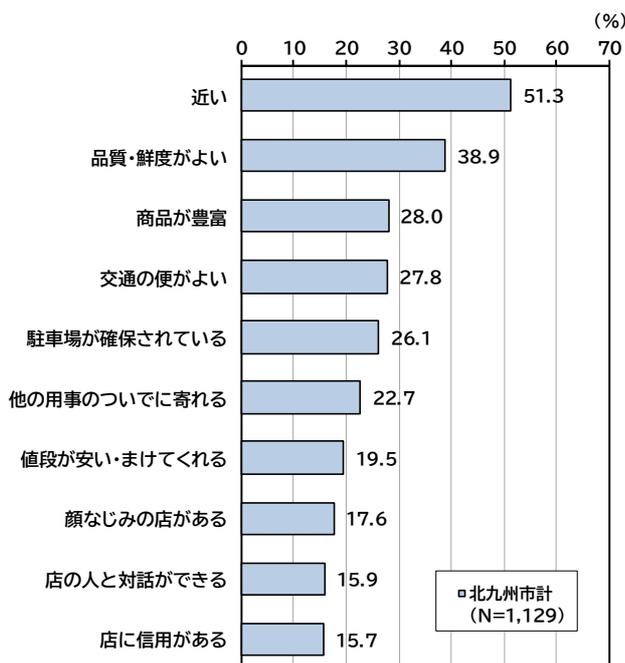
■ 性別・年代別にみた商店街・市場の利用頻度(週1回以上) ■



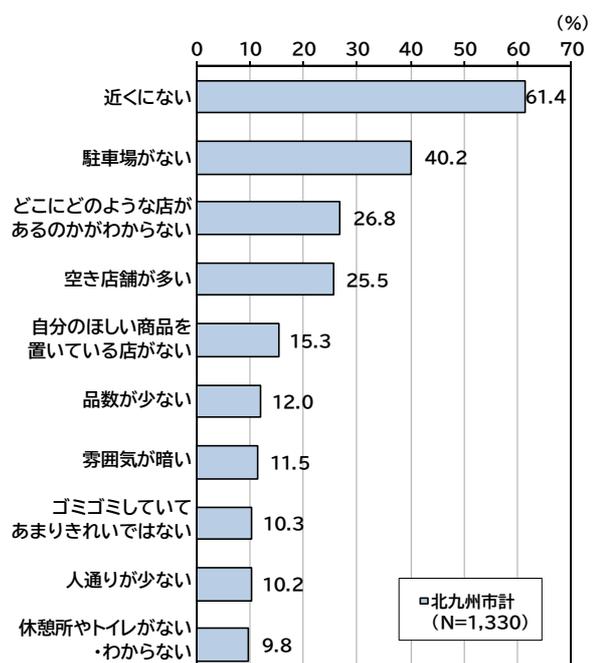
《商店街・市場を利用する理由》

- 市内居住者が商店街・市場を利用する理由をみると、「近い」51.3%が最も高く、ついで「品質・鮮度がよい」38.9%、「商品が豊富」28.0%、「交通の便がよい」27.8%、「駐車場が確保されている」26.1%の順となっている。
- 市内居住者が商店街・市場を利用しない理由をみると、「近くにない」が61.4%と圧倒的に高く、次いで「駐車場がない」40.2%、「どこにどのような店があるのかわからない」26.8%、「空き店舗が多い」25.5%の順となっている。

■ 商店街・市場を利用する理由 ■



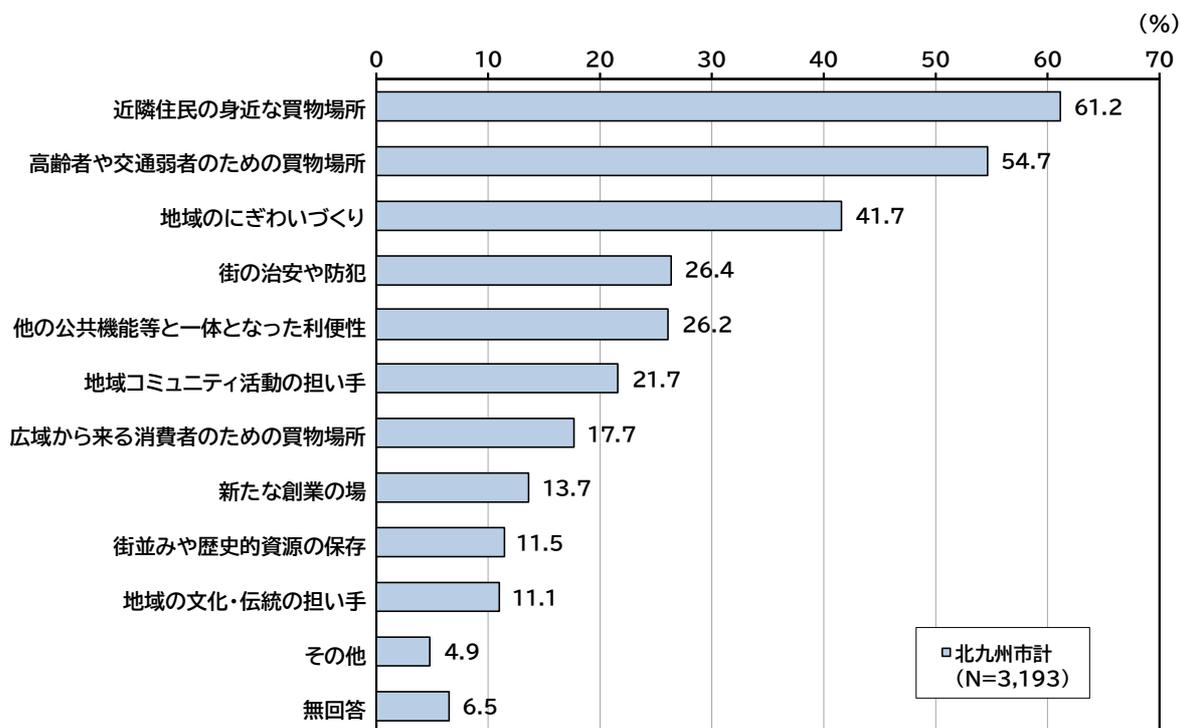
■ 商店街・市場を利用しない理由 ■



《商店街や市場が活性化していく上で果たすべき役割》

- 商店街や市場が消費者に対してどのような役割・機能を果たしていくべきかをみると、「近隣住民の身近な買物場所」が 61.2%と最も高くなっている。次いで「高齢者や交通弱者のための買物場所」54.7%、「地域のにぎわいづくり」41.7%、「街の治安や防犯」26.4%、「他の公共機能等と一体となった利便性」26.2%、「地域コミュニティ活動の担い手」21.7%の順となっている。

■ 商店街や市場が活性化していく上で果たすべき役割 ■

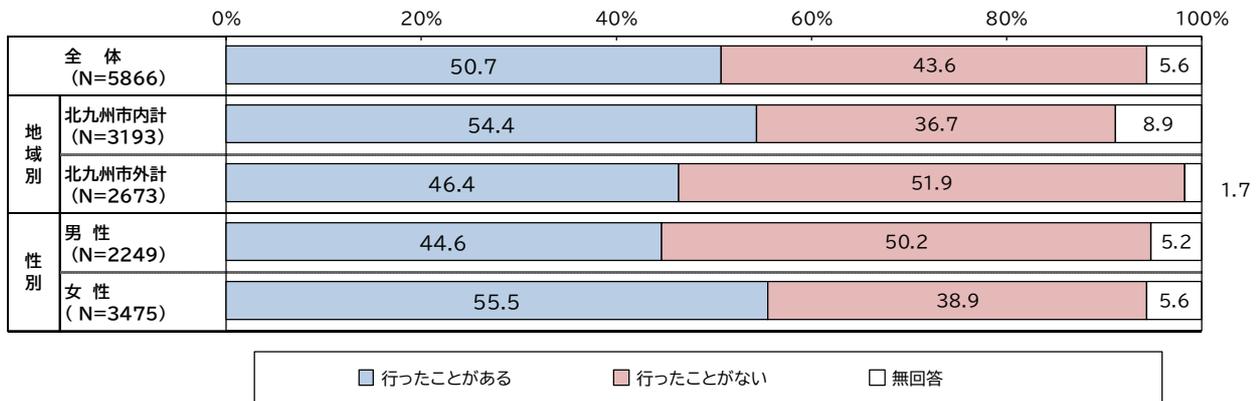


9 東田地区(ジ アウトレット北九州、北九州英語村(KGG)、スペース・ラボ(新科学館)、いのちのたび博物館など)について

《来街経験》

- 全体では、「行ったことがある」が50.7%となっている。
- 地域別では、市外居住者より市内居住者の方が「行ったことがある」の割合が高く、性別では男性より女性の方が高くなっている。

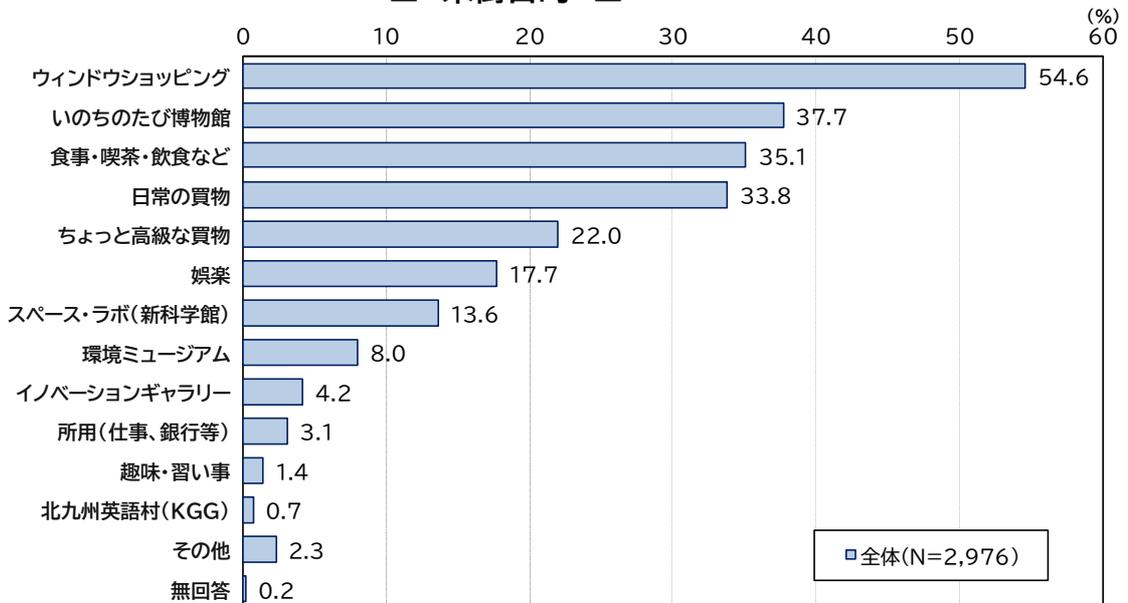
■ 来街経験 ■



《来街目的》

- 「ウィンドウショッピング」が54.6%と最も高くなっている。次いで「いのちのたび博物館」37.7%、「食事・喫茶・飲食など」35.1%、「日常の買物」33.8%、「ちょっと高級な買物」22.0%の順となっている。

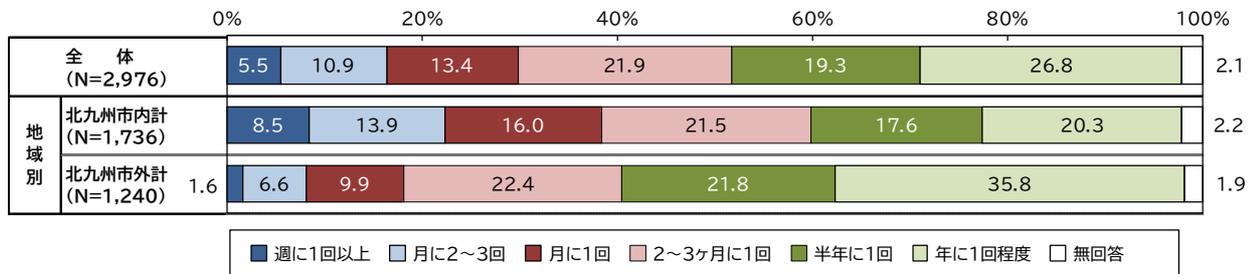
■ 来街目的 ■



《来街頻度》

- 普段、買物する・しないに関係なく、東田地区に行く頻度をみると、「年に1回程度」が26.8%と最も高くなっている。次いで「2～3ヶ月に1回」21.9%、「半年に1回」19.3%、「月に1回」13.4%、「月に2～3回」10.9%、「週に1回以上」5.5%の順となっている。

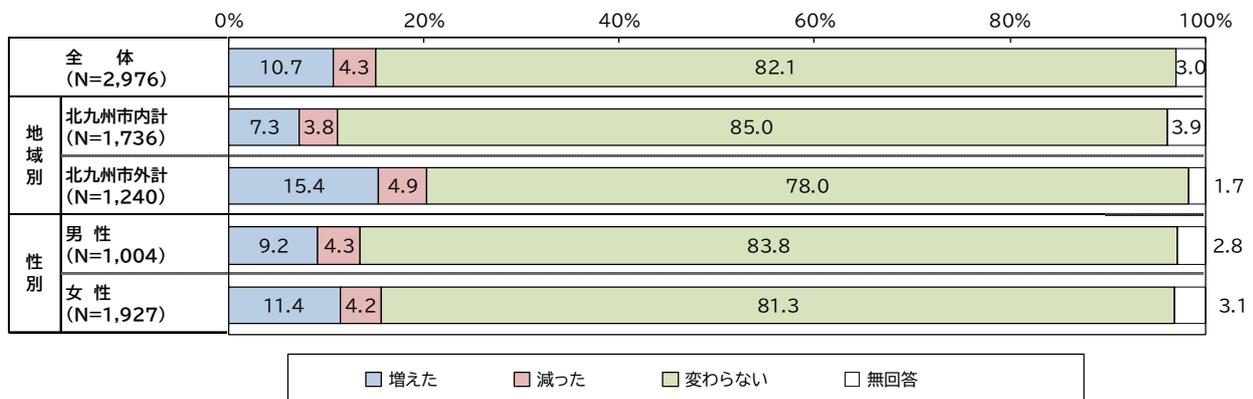
■ 来街頻度 ■



《普段利用商業地区の利用状況の変化》

- ジ アウトレット北九州を利用することで、それまで普段利用していた商業地区の利用状況の変化をみると、「変わらない」が82.1%と圧倒的に高くなっている。「増えた」が10.7%で、「減った」は4.3%と低くなっている。
- 地域別では、市内居住者より市外居住者の方が「増えた」の割合が高く、性別では男性より女性の方が高くなっている。

■ 普段利用商業地区の利用状況の変化 ■

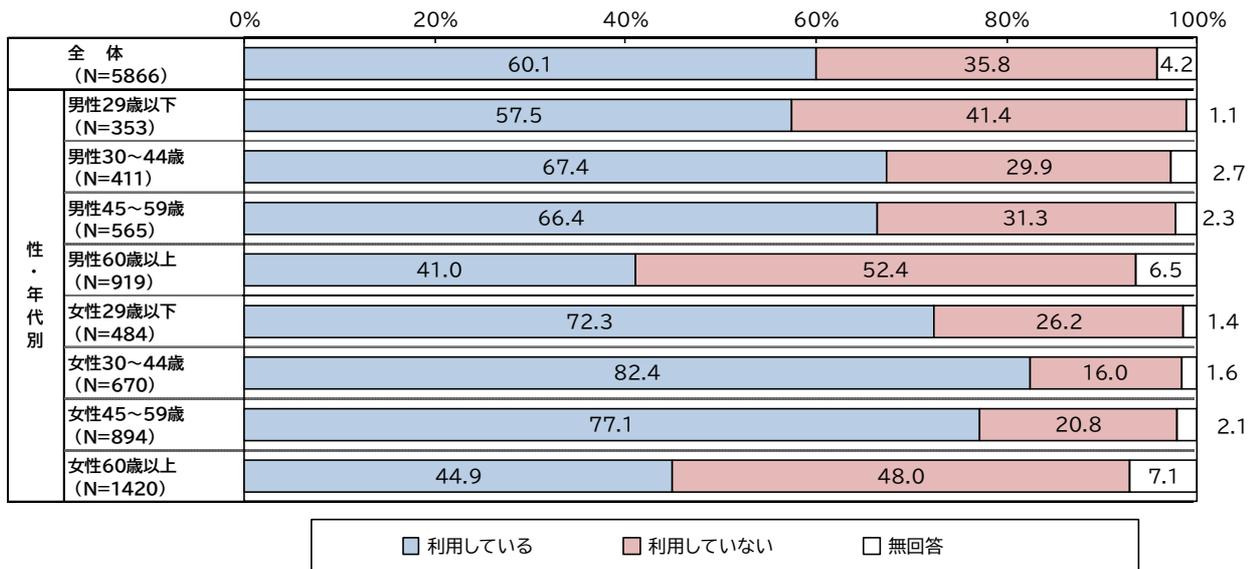


10 キャッシュレス決済について

《利用状況》

- 電子マネー(ICカード/スマホ)、カード(クレジット/デビット/プリペイド)、コード決済(QR/バーコード/スマホ)などのいわゆるキャッシュレス決済の利用状況をみると、「利用している」は60.1%となっている。
- 女性30～44歳での利用率が82.4%と最も高く、次いで女性45～59歳で77.1%、女性29歳以下で72.3%の順となっている。一方、男女とも60歳以上での利用率は4割台にとどまっている。

■ キャッシュレス決済利用状況 ■

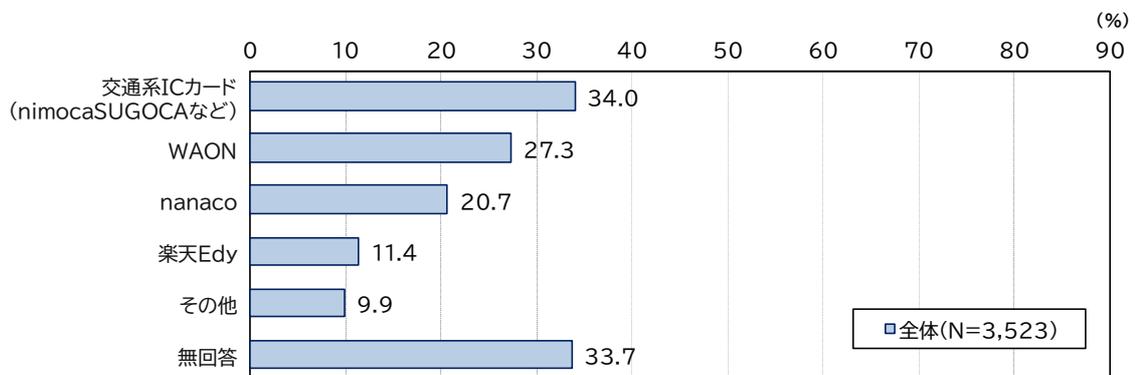


《利用しているキャッシュレス決済》

① 電子マネー(ICカード/スマホ)

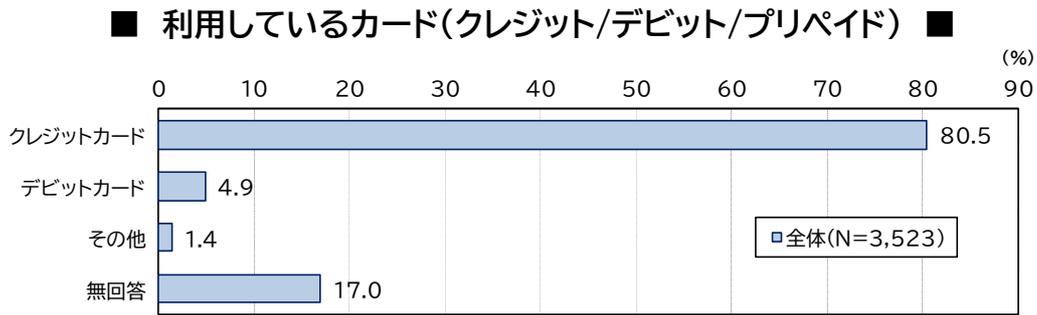
- 「交通系ICカード(nimoca, SUGOCA など)」が34.0%と最も多く、次いで「WAON」(27.3%)、「nanaco」(20.7%)となっている。

■ 利用している電子マネー(ICカード/スマホ) ■



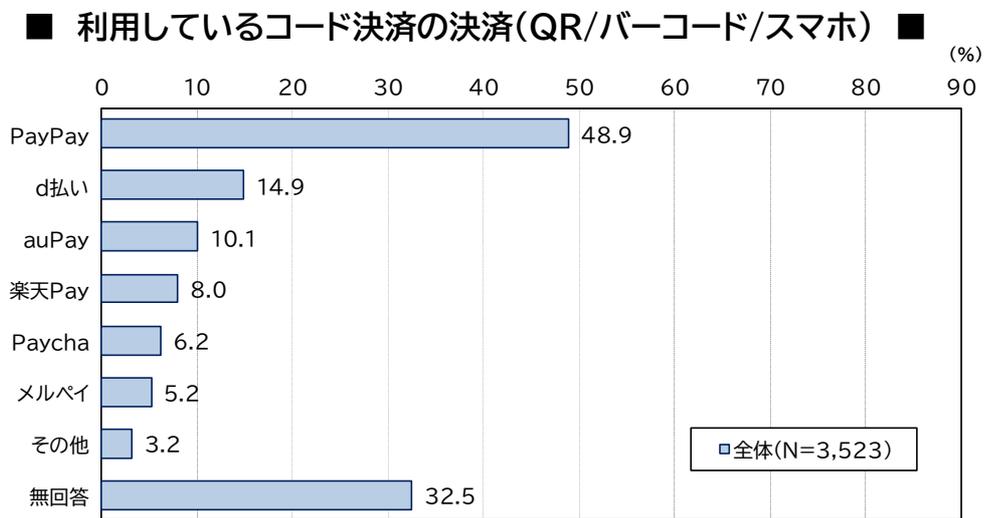
② カード(クレジット/デビット/プリペイド)

- 「クレジットカード」が80.5%と圧倒的に高い。



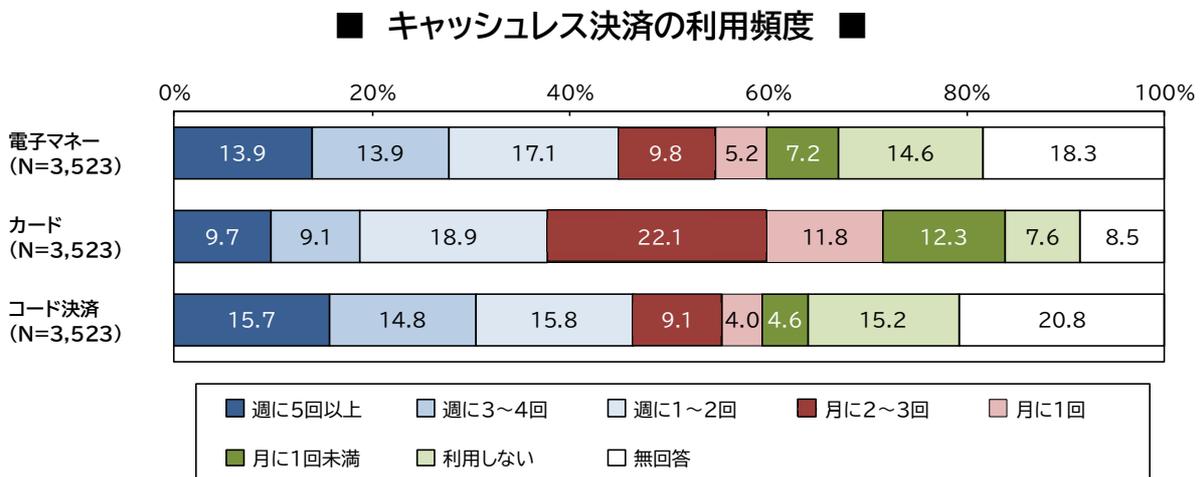
③ コード決済の決済(QR/バーコード/スマホ)

- 「PayPay」が48.9%と最も多くなっている。次いで「d払い」(14.9%)、「auPay」(10.1%)となっている。



《キャッシュレス決済の利用頻度》

- 週に1回以上利用している割合をみると、コード決済が46.3%、電子マネーが44.9%、カードが37.7%となっている。



令和4年度 北九州市商圈調査報告書

令和5年6月

北九州市

【調査企画】

北九州市産業経済局 地域経済振興部 商業・サービス産業政策課

〒803-8501

北九州市小倉北区城内1番1号

TEL 093-582-2050

【調査・集計・分析】

株式会社 東京商工リサーチ

〒802-0003

北九州市小倉北区米町二丁目1番2号小倉第一生命ビル

TEL 093-551-1731